

尾張旭市の環境についてのアンケート結果

実施概要及び回収結果

市民や事業所の皆さんの環境に関する取り組みやご意見を踏まえて、尾張旭市環境基本計画の見直しを進めるため、アンケートを実施しました。

○調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市民 2,000 人

尾張旭市に本社・支店を置く民間事業所 100 社

○調査期間：平成 26 年 7 月 4 日から 18 日まで

○調査方法：郵送配布・郵送回収

○回収結果：

	配布数	回収数	回収率	(現行計画策定時)
18 歳以上の市民	2,000	811	40.6%	39.7%
尾張旭市に本社・支店を置く民間事業所	100	51	51.0%	45.3%
合計	2,100	862	41.0%	—

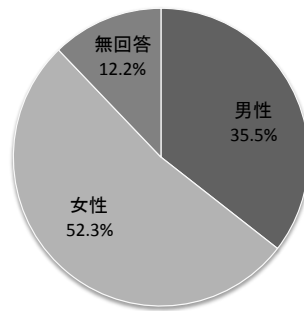
市民向けアンケート調査結果

回答者属性〈市民〉

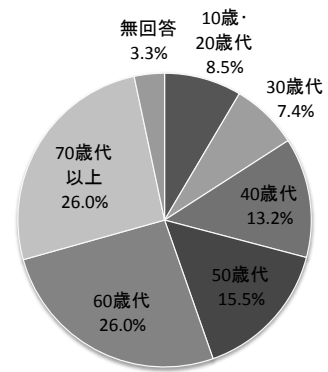
○回答者は、男性が約 36%、女性が約 52%であり、年齢では、60 歳代及び 70 歳代以上が約 26%、50 歳代が約 16%、40 歳代が約 13%でした。

○住所（小学校区）は、概ねいずれの小学校区も 10%前後でした。

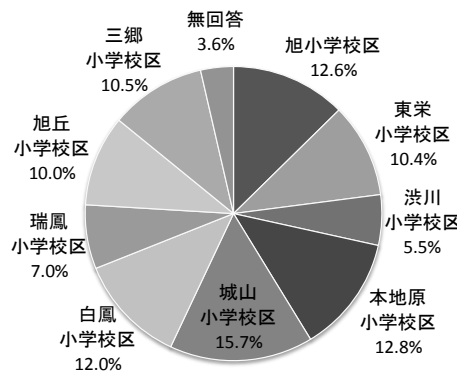
○尾張旭市の居住年数は、30 年以上が約 5 割と最も多く、次いで 21~30 年が約 22%、11~20 年が約 16%でした。



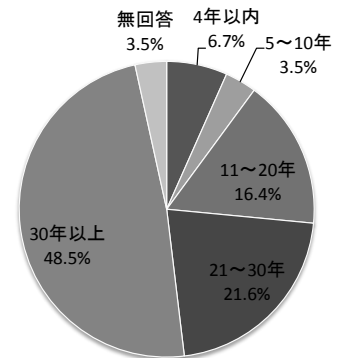
■性別



■年齢



■住所（小学校区）

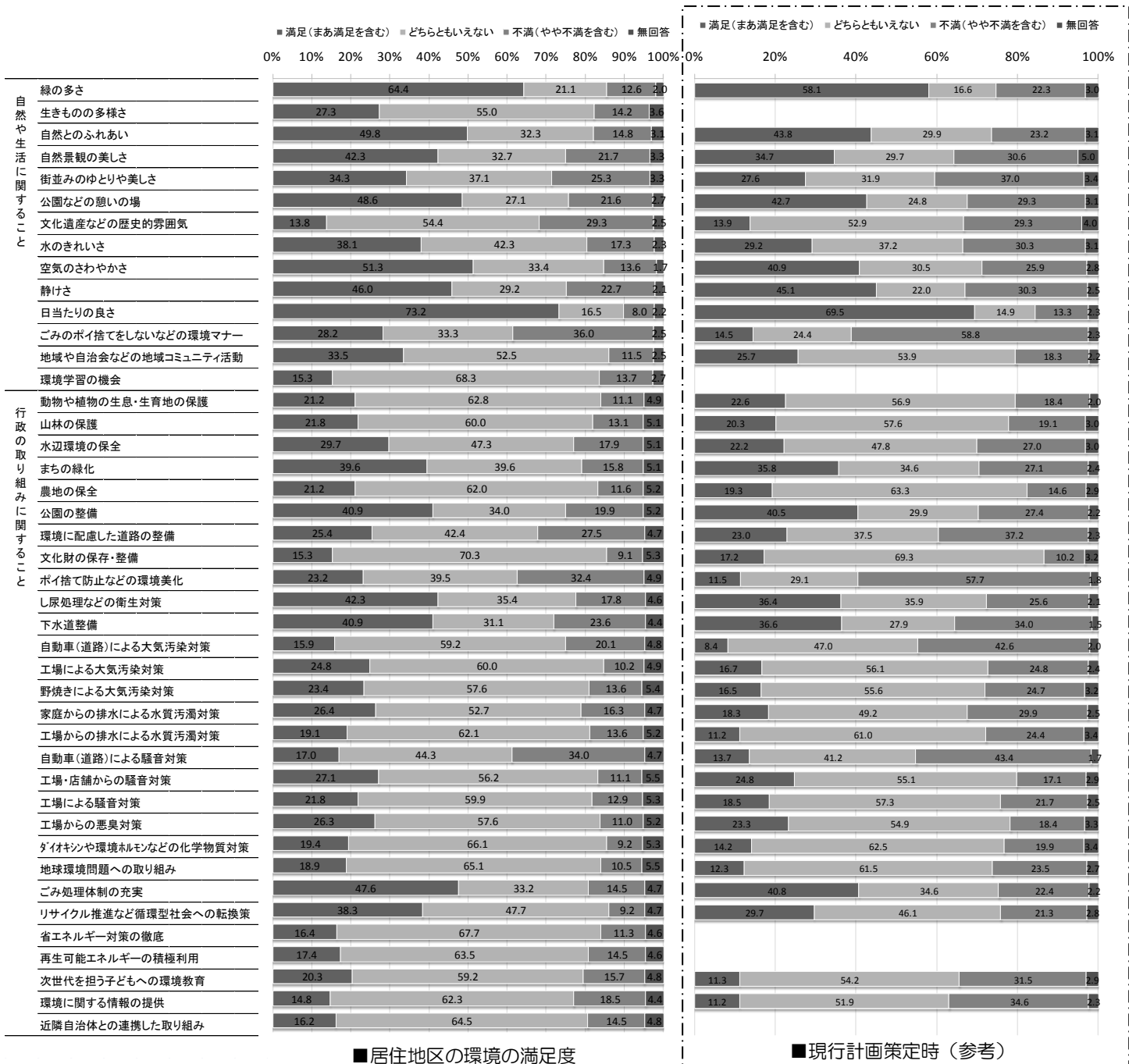


■居住年数

居住地区の満足度〈市民〉

○居住地区の環境の満足度をみると、「自然や生活に関すること」では、「日当たりの良さ」、「緑の多さ」、「空気のさわやかさ」といった項目の満足度が高かった一方で、「ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー」、「文化遺産などの歴史的雰囲気」、「街並みのゆとりや美しさ」といった項目の満足度が低く、概ね現行計画策定時と同様の結果となっていました。

○「行政の取り組みに関すること」では、「ごみ処理体制の充実」、「し尿などの衛生対策」、「下水道整備」といった項目の満足度が高かった一方で、「自動車による騒音対策」、「ポイ捨て防止などの環境美化」、「環境に配慮した道路の整備」といった項目の満足度が低く、「自動車による大気汚染対策」は、現行計画策定時と比較して不満の割合が大きく減少していました。



○「自然や生活に関すること」についての満足度を年齢別にみると、どの年代においても「文化遺産などの歴史的雰囲気」と「ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー」、「環境学習の機会」の満足度が低くなっていました。

○「行政の取り組みに関すること」についての満足度を年齢別にみると、どの年代においても「自動車（道路）による騒音対策」と「ポイ捨て防止などの環境美化」の満足度が低く、その他「環境に関する情報の提供」の満足度も低くなっていました。

		居住地区の環境の満足度（自然や生活に関すること） 下位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	10歳・20歳代	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	30歳代	文化遺産などの歴史的雰囲気	環境学習の機会	街並みのゆとりや美しさ
	40歳代	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	50歳代	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	60歳代	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	70歳代以上	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	文化遺産などの歴史的雰囲気	環境学習の機会

■居住地区の環境の満足度（自然や生活に関すること） 【年齢別集計】

		居住地区の環境の満足度（行政の取り組みに関すること） 下位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による大気汚染対策
	10歳・20歳代	自動車（道路）による騒音対策	野焼きによる大気汚染対策	環境に関する情報の提供
	30歳代	自動車（道路）による騒音対策	自動車（道路）による大気汚染対策	環境に関する情報の提供
	40歳代	自動車（道路）による騒音対策	自動車（道路）による大気汚染対策	ポイ捨て防止などの環境美化
	50歳代	自動車（道路）による騒音対策	環境に配慮した道路の整備	ポイ捨て防止などの環境美化
	60歳代	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による騒音対策	環境に関する情報の提供
	70歳代以上	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による大気汚染対策

■居住地区の環境の満足度（行政の取り組みに関すること） 【年齢別集計】

○住所別に満足度をみた場合においても、「文化遺産などの歴史的雰囲気」と「ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー」、「自動車（道路）による騒音対策」と「ポイ捨て防止などの環境美化」の満足度が低く、地区によっては「下水道整備」の満足度が低くなっていました。

		居住地区の環境の満足度（自然や生活に関すること） 下位3項目		
		1	2	3
回答者の住所（小学校区）	全体	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	旭小学校区	街並みのゆとりや美しさ	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	文化遺産などの歴史的雰囲気
	東栄小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	文化遺産などの歴史的雰囲気	環境学習の機会
	渋川小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	静けさ
	本地原小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	城山小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	白鳳小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	瑞鳳小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	自然景観の美しさ
	旭丘小学校区	文化遺産などの歴史的雰囲気	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	環境学習の機会
	三郷小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	文化遺産などの歴史的雰囲気	街並みのゆとりや美しさ

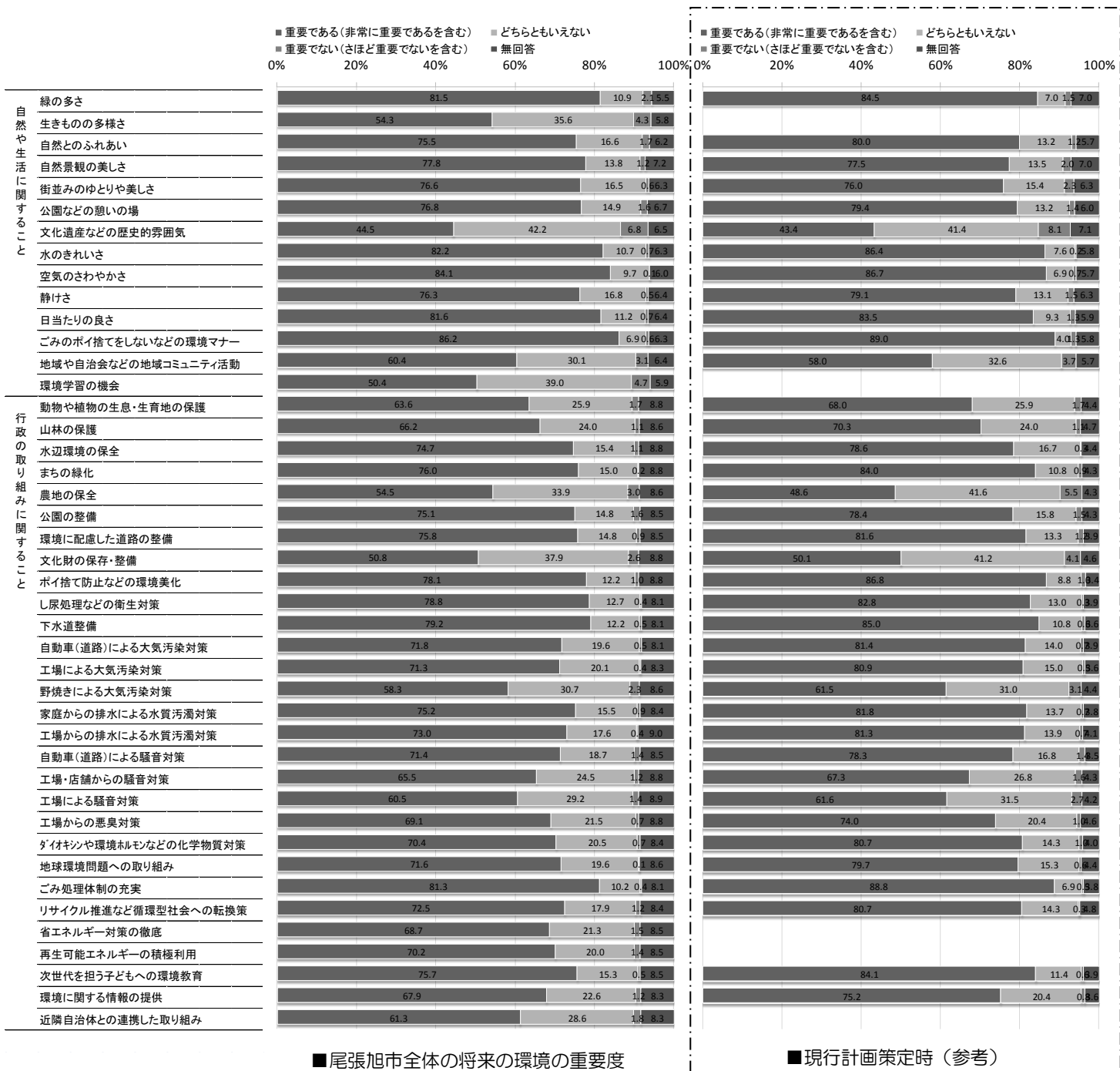
■居住地区の環境の満足度（自然や生活に関すること） 【居住地別集計】

		居住地区の環境の満足度（行政の取り組みに関すること） 下位3項目		
		1	2	3
回答者の住所（小学校区）	全体	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による大気汚染対策
	旭小学校区	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による大気汚染対策
	東栄小学校区	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による騒音対策	環境に配慮した道路の整備
	渋川小学校区	自動車（道路）による騒音対策	自動車（道路）による大気汚染対策	環境に関する情報の提供
	本地原小学校区	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による大気汚染対策	自動車（道路）による騒音対策
	城山小学校区	自動車（道路）による騒音対策	下水道整備	自動車（道路）による大気汚染対策
	白鳳小学校区	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	下水道整備
	瑞鳳小学校区	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	近隣自治体と連携した取り組み
	旭丘小学校区	自動車（道路）による騒音対策	ポイ捨て防止などの環境美化	環境に関する情報の提供
	三郷小学校区	ポイ捨て防止などの環境美化	自動車（道路）による騒音対策	環境に配慮した道路の整備

■居住地区の環境の満足度（行政の取り組みに関すること） 【居住地別集計】

尾張旭市全体の将来の環境の重要度〈市民〉

- 尾張旭市全体の将来の環境の重要度をみると、「自然や生活に関すること」では、「ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー」、「空気のさわやかさ」、「水のきれいさ」といった項目の重要度が高く、「文化遺産などの歴史的雰囲気」、「環境学習の機会」、「生きものの多様さ」といった項目の重要度が低くなっていました。
- 「行政の取り組みに関すること」では、「ごみ処理体制の充実」、「下水道整備」、「し尿処理などの衛生対策」といった生活環境に関する項目の重要度が高くなっていました。
- 現行計画策定時と比較して概ね同様の結果となっていました。



○年齢別にみると、「自然や生活に関すること」については、年齢による重要度の違いはみられませんでした。一方、「行政の取り組みに関すること」については、「下水道整備」、「ごみ処理体制の充実」といった生活環境に関する項目以外に、30歳代では「次世代を担う子どもへの環境教育」が最も重要度が高くなっていました。

		尾張旭市全体の将来の環境の重要度（自然や生活に関すること） 上位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	10歳・20歳代	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	水のきれいさ	空気のさわやかさ
	30歳代	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	水のきれいさ	空気のさわやかさ
	40歳代	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	50歳代	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	60歳代	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	70歳代以上	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ

■尾張旭市全体の将来の環境の重要度（自然や生活に関すること） 【年齢別集計】

		尾張旭市全体の将来の環境の重要度（行政の取り組みに関すること） 上位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	下水道整備	ごみ処理体制の充実	し尿処理などの衛生対策
	10歳・20歳代	ポイ捨て防止などの環境美化	水辺環境の保全	し尿処理などの衛生対策
	30歳代	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	し尿処理などの衛生対策
	40歳代	下水道整備	し尿処理などの衛生対策	ごみ処理体制の充実
	50歳代	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実
	60歳代	下水道整備	ごみ処理体制の充実	工場からの排水による水質汚濁対策
	70歳代以上	し尿処理などの衛生対策	ごみ処理体制の充実	次世代を担う子どもへの環境教育

■尾張旭市全体の将来の環境の重要度（行政の取り組みに関すること） 【年齢別集計】

○住所別にみると、「自然や生活に関すること」については、住所による重要度の大きな違いはみられませんでした。また、「行政の取り組みに関すること」については、瑞鳳、旭丘、三郷小学校区で「次世代を担う子どもへの環境教育」の重要度が高くなっていました。

		尾張旭市全体の将来の環境の重要度（自然や生活に関すること） 上位3項目		
		1	2	3
回答者の住所（小学校区）	全体	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	旭小学校区	空気のさわやかさ	水のきれいさ	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー
	東栄小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	日当たりの良さ
	渋川小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	本地原小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	城山小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	白鳳小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	瑞鳳小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	旭丘小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	空気のさわやかさ	水のきれいさ
	三郷小学校区	ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー	日当たりの良さ	空気のさわやかさ

■尾張旭市全体の将来の環境の重要度（自然や生活に関すること） 【居住地別集計】

		尾張旭市全体の将来の環境の重要度（行政の取り組みに関すること） 上位3項目		
		1	2	3
回答者の住所（小学校区）	全体	下水道整備	ごみ処理体制の充実	し尿処理などの衛生対策
	旭小学校区	下水道整備	ごみ処理体制の充実	し尿処理などの衛生対策
	東栄小学校区	ごみ処理体制の充実	下水道整備	し尿処理などの衛生対策
	渋川小学校区	下水道整備	工場からの排水による水質汚濁対策	ごみ処理体制の充実
	本地原小学校区	ごみ処理体制の充実	し尿処理などの衛生対策	下水道整備
	城山小学校区	下水道整備	し尿処理などの衛生対策	ごみ処理体制の充実
	白鳳小学校区	下水道整備	ごみ処理体制の充実	し尿処理などの衛生対策
	瑞鳳小学校区	ごみ処理体制の充実	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備
	旭丘小学校区	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実
	三郷小学校区	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実

■尾張旭市全体の将来の環境の重要度（行政の取り組みに関すること） 【居住地別集計】

行政の取り組みで特に重要なこと

○前述の「行政の取り組みに関すること」のうちで、「特に重要であると思うもの」を再度確認した結果については、「次世代を担う子どもへの環境教育」が約 24%と最も高く、次いで、「下水道整備」、「環境に配慮した道路の整備」、「ごみ処理体制の充実」、「まちの緑化」の順に高くなっていました。



■行政の取り組みに関することで特に重要なこと

○年齢別にみると、30歳代～50歳代までの子育て世代で、「次世代を担う子どもへの環境教育」の重要度が特に高くなっていました。

		行政の取り組みに関することで特に重要なこと 上位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	環境に配慮した道路の整備
	10歳・20歳代	ポイ捨て防止などの環境美化	環境に配慮した道路の整備	公園の整備
	30歳代	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	公園の整備
	40歳代	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実	環境に配慮した道路の整備
	50歳代	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実	下水道整備
	60歳代	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	公園の整備
	70歳代以上	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	環境に配慮した道路の整備

■行政の取り組みに関することで特に重要なこと 【年齢別集計】

○住所別にみると、渋川小学校区では、他の地区と比較して「水辺環境の保全」の重要度が高くなっていました。また、三郷小学校区では「公園の整備」の重要度が高くなっていました。

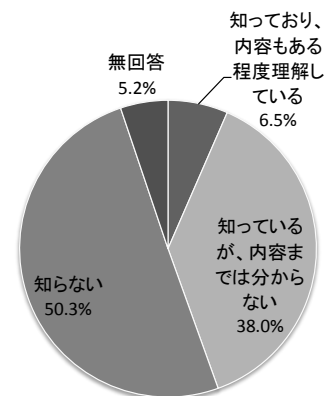
		行政の取り組みに関することで特に重要なこと 上位3項目		
		1	2	3
回答者の住所（小学校区）	全体	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	環境に配慮した道路の整備
	旭小学校区	下水道整備	環境に配慮した道路の整備	次世代を担う子どもへの環境教育
	東栄小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	環境に配慮した道路の整備	ポイ捨て防止などの環境美化
	渋川小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	まちの緑化	水辺環境の保全
	本地原小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	ポイ捨て防止などの環境美化
	城山小学校区	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	環境に配慮した道路の整備
	白鳳小学校区	下水道整備	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実
	瑞鳳小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	ごみ処理体制の充実	下水道整備
	旭丘小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	下水道整備	ごみ処理体制の充実
	三郷小学校区	次世代を担う子どもへの環境教育	環境に配慮した道路の整備	公園の整備

■行政の取り組みに関することで特に重要なこと 【居住地別集計】

「尾張旭市環境基本計画」の認知度〈市民〉

○現行の「尾張旭市環境基本計画」の認知度をみると、「知っている、内容もある程度理解している」という回答は1割未満であり、「知らない」という回答が5割以上となっていました。

○年齢別にみると、10歳・20歳代、30歳代で「知らない」という回答が7割以上であり、若い世代ほど認知度が低い結果となっていました。

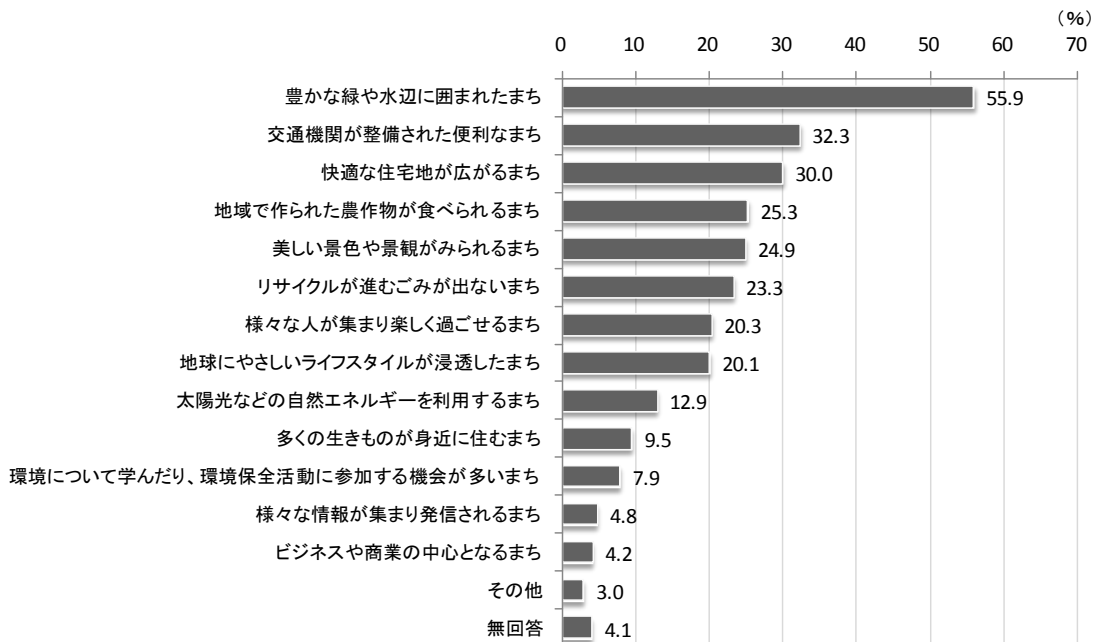


■「尾張旭市環境基本計画」の認知度

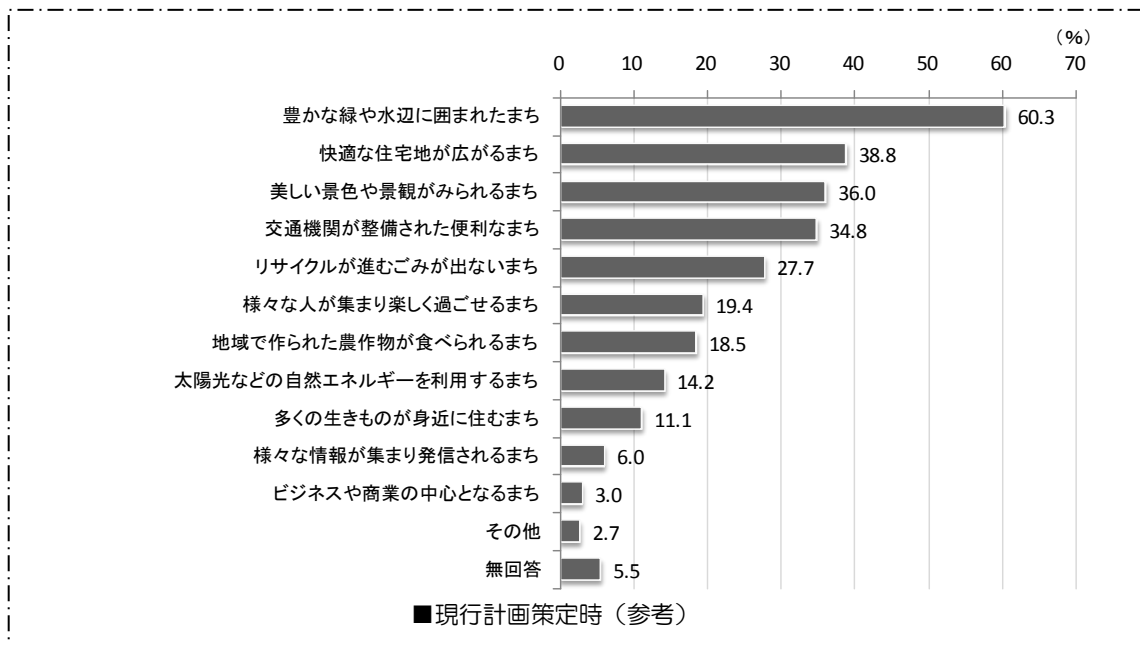
これからの尾張旭市の環境を表すキーワード〈市民〉

○これからの尾張旭市の環境を表すキーワードとしては、「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」が約6割と最も多く、次いで「交通機関が整備された便利なまち」、「快適な住宅地が広がるまち」、「地域で作られた農作物が食べられるまち」、「美しい景色や景観がみられるまち」という順になっていました。

○現行計画策定時と比較すると、「地域で作られた農作物が食べられるまち」の回答割合が高くなっていました。



■これからの尾張旭市の環境を表すキーワード



■現行計画策定時（参考）

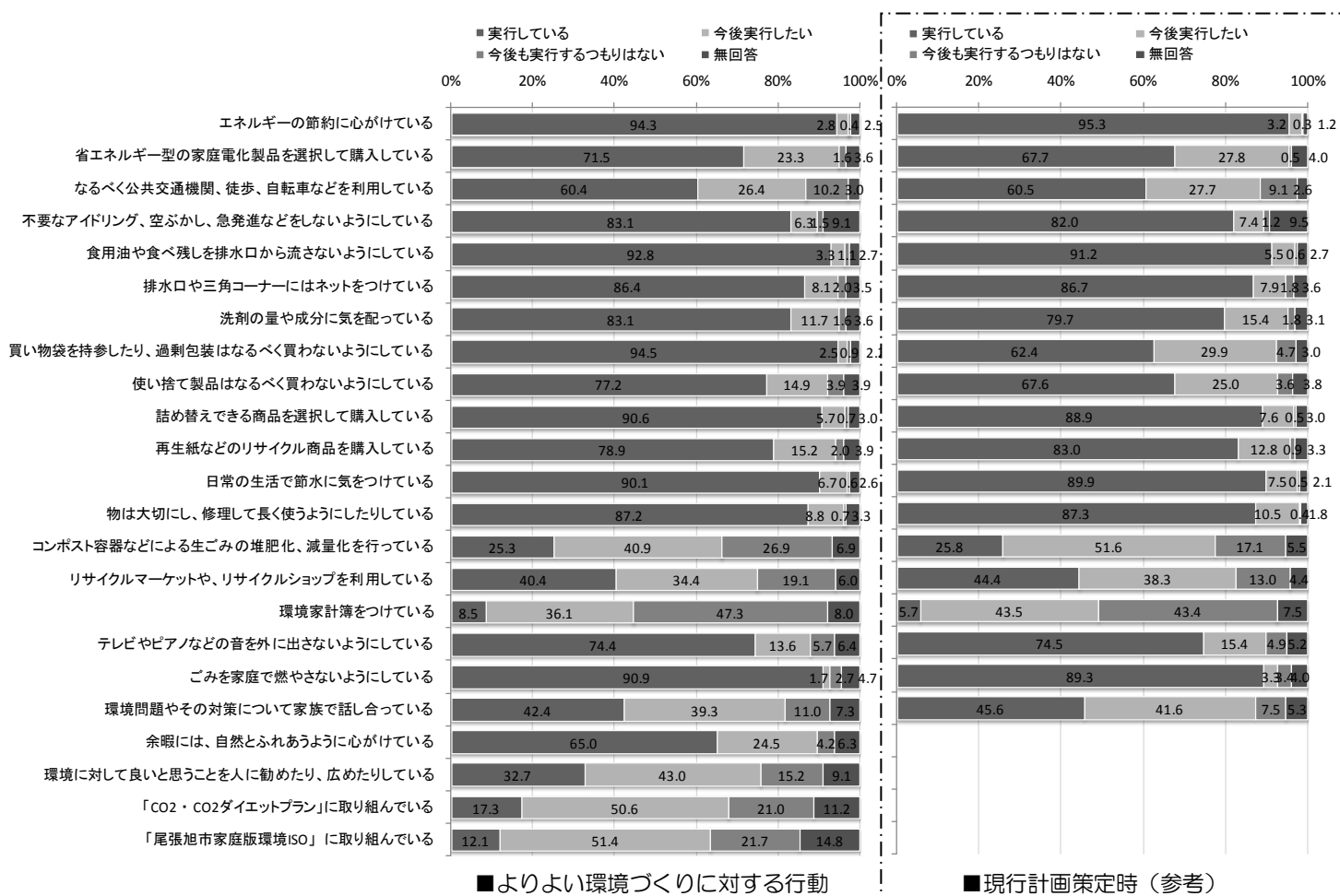
		これからの尾張旭市の環境を表すキーワード 上位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	交通機関が整備された便利なまち	快適な住宅地が広がるまち
	10歳・20歳代	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	快適な住宅地が広がるまち	様々な人が集まり楽しく過ごせるまち
	30歳代	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	快適な住宅地が広がるまち	美しい景色や景観がみられるまち
	40歳代	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	快適な住宅地が広がるまち	地域でつくられた農作物が食べられるまち
	50歳代	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	快適な住宅地が広がるまち	交通機関が整備された便利なまち
	60歳代	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	交通機関が整備された便利なまち	美しい景色や景観がみられるまち
	70歳代以上	豊かな緑や水辺に囲まれたまち	交通機関が整備された便利なまち	地域でつくられた農作物が食べられるまち

■これからの尾張旭市の環境を表すキーワード 【年齢別集計】

よりよい環境づくりに対する行動〈市民〉

○よりよい環境づくりのために普段行っている行動については、「買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている」、「エネルギーの節約に心がけている」、「食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている」といった日常的に実行されている割合が高くなっていました。

○「尾張旭市家庭版環境 ISO」や「CO2・CO2 ダイエットプラン」への取り組み、「環境に良いと思うことの普及波及」、「生ごみの堆肥化・減量化」といった行動については、「今後実行していきたい」という回答が多数寄せられました。



○年齢別にみると、いずれの年齢においても、「ごみを家庭で燃やさないようにしている」や「買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている」、「食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている」といった行動の実行率が高くなっていました。

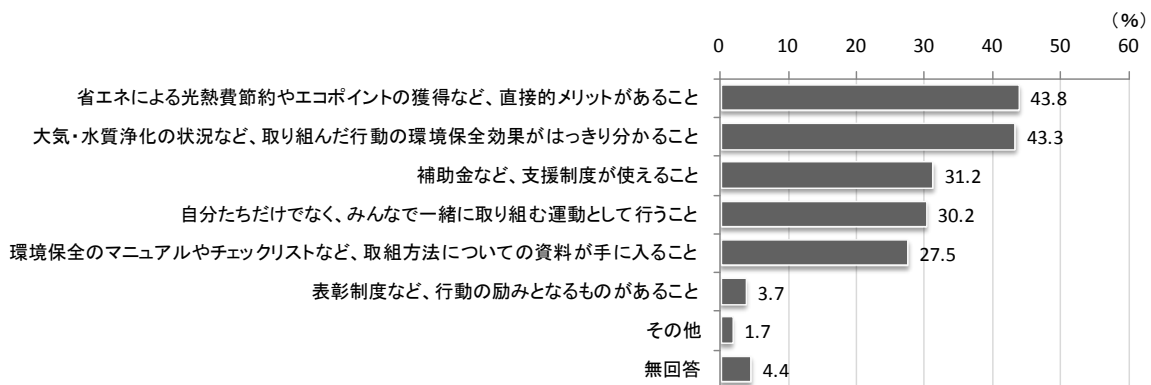
		よりよい環境づくりに対する行動（実行率） 上位3項目		
		1	2	3
回答者の年齢	全体	ごみを家庭で燃やさないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている	食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている
	10歳・20歳代	排水口や三角コーナーにはネットをつけている	ごみを家庭で燃やさないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている
	30歳代	ごみを家庭で燃やさないようにしている	エネルギーの節約に心がけている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている
	40歳代	食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている	排水口や三角コーナーにはネットをつけている
	50歳代	ごみを家庭で燃やさないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている	食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている
	60歳代	食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている	ごみを家庭で燃やさないようにしている
	70歳代以上	食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている	買い物袋を持参したり、過剰包装はなるべく買わないようにしている	ごみを家庭で燃やさないようにしている

■よりよい環境づくりに対する行動（実行率） 【年齢別集計】

よりよい環境づくりに積極的に取り組むために必要なこと〈市民〉

○よりよい環境づくりに対する行動をより積極的に取り組むために必要なこととしては、「省エネによる光熱費節約やエコポイントの獲得など、直接的メリットがあること」、「大気・水質浄化の状況など、取り組んだ行動の環境保全効果ははっきりわかること」を挙げる人が4割以上と多くなっていました。

○年齢別にみると、10歳代や20歳代、60歳代や70歳代以上において、「自分たちだけでなく、みんなと一緒に取り組む運動として行うこと」の回答割合も高くなっていました。

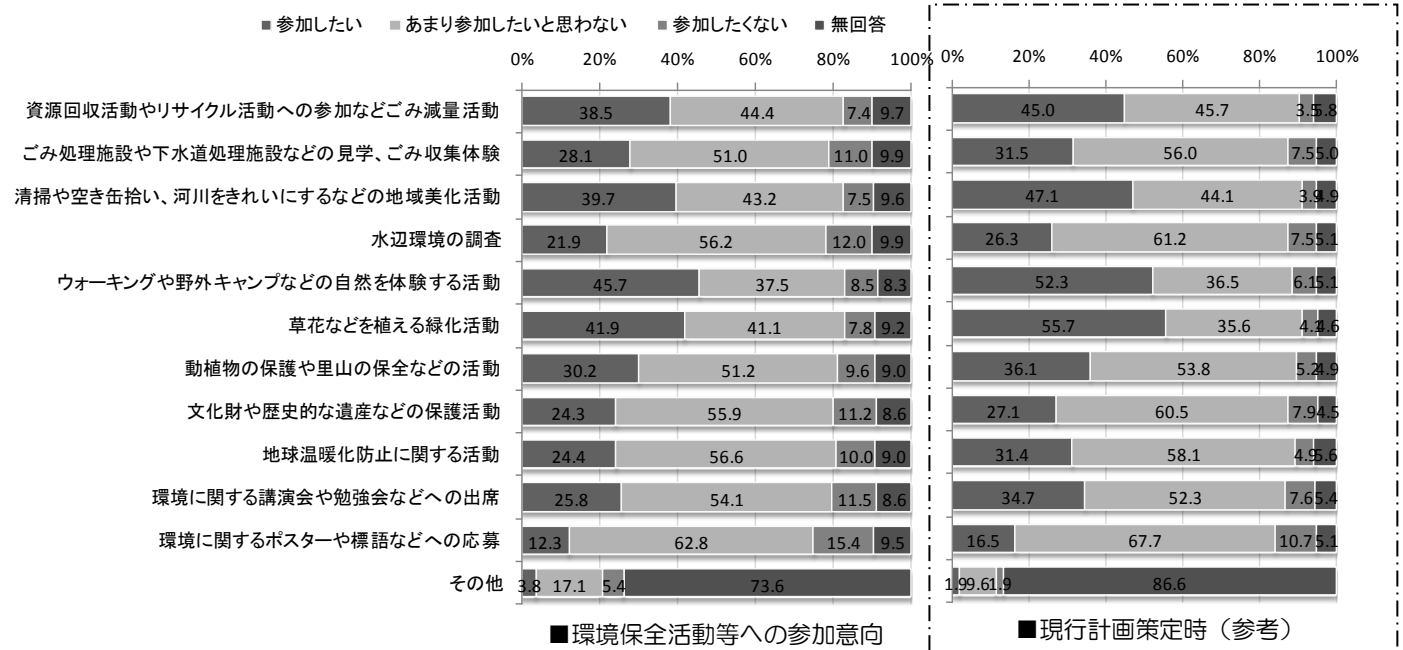
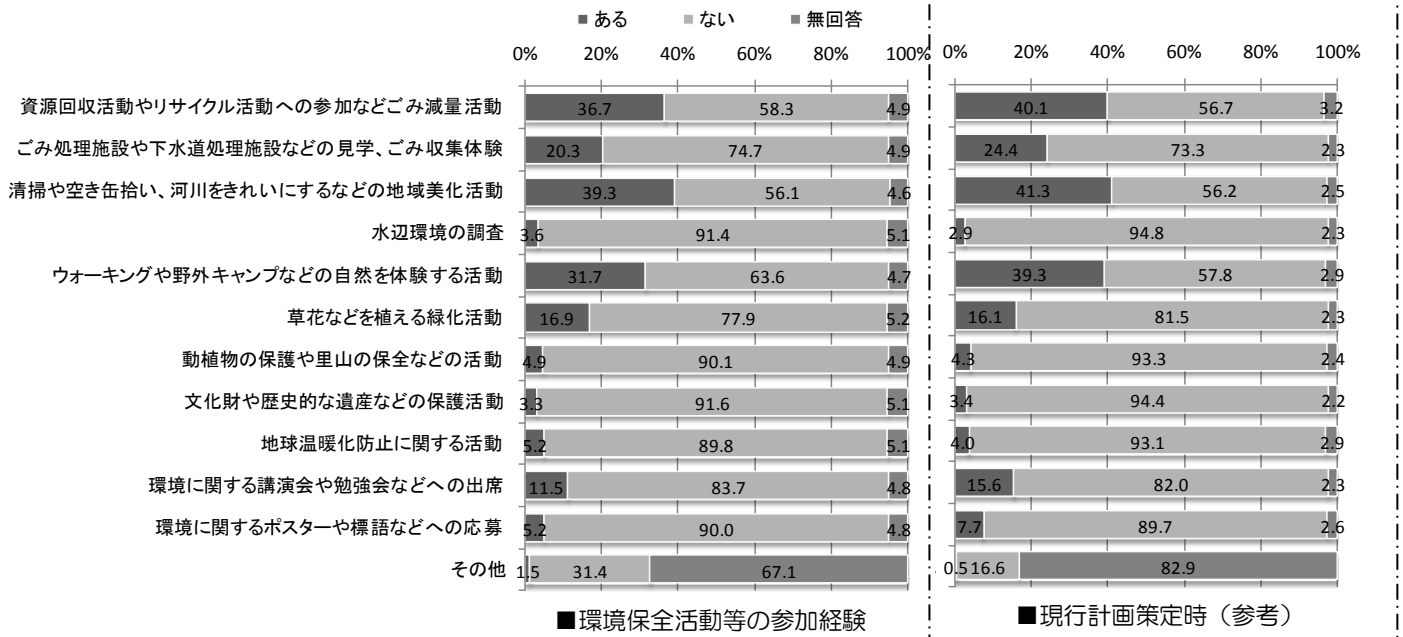


■よりよい環境づくりに積極的に取り組むために必要なこと

環境保全活動等の参加経験及び今後の参加意向〈市民〉

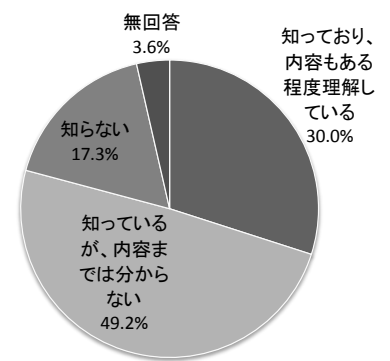
○環境保全活動等の参加経験をみると、「清掃や空き缶拾い、河川をきれいにするなどの地域美化活動」や「資源回収活動やリサイクル活動への参加などごみ減量活動」、「ウォーキングや野外キャンプなどの自然を体験する活動」への参加経験が多くなっていました。

○また、参加意向の高い環境保全活動としては、「ウォーキングや野外キャンプなどの自然を体験する活動」や「草花などを植える緑化活動」のほか、現状において参加経験の多い「地域美化活動」や「ごみ減量活動」への参加意向も高くなっていました。また、参加経験は少ないが「動植物の保護や里山の保全などの活動」への参加意向も高くなっていました。



「生物多様性」の認知度〈市民〉

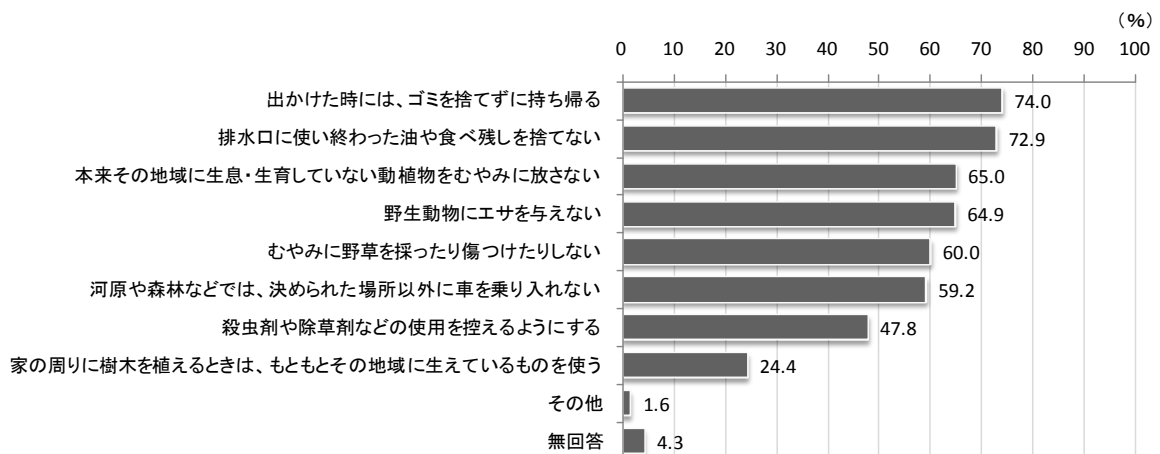
- 「生物多様性」の認知度をみると、「知らない」という回答は 2 割弱であり、平成 22 年に愛知・名古屋にて開催された「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」の影響もあり、「生物多様性」という言葉自体は広く認識されていました。
- 年齢別にみると、10 歳代では内容まである程度理解している人が約 5 割であり、若い世代ほど認知度が高くなっていました。



■「生物多様性」の認知度

生物多様性を保全するためにできること〈市民〉

- 「生物多様性を保全するためにできること」については、「出かけた時には、ごみを捨てずに持ち帰る」、「排水口に使い終わった油や食べ残しを捨てない」をはじめ、多くの行動で実践可能という回答が多数寄せられました。



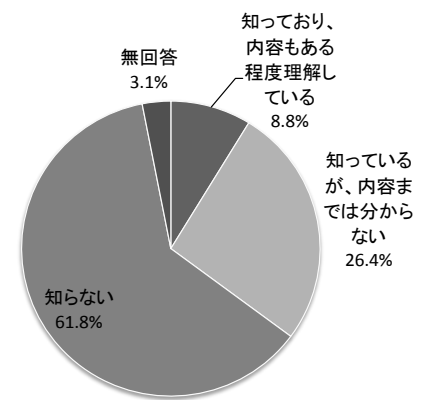
■生物多様性を保全するためにできること

「ESD*」の認知度〈市民〉

* ESD：持続可能な発展のための教育（Education-for-Sustainable-Development）の略

○「ESD」の認知度をみると、「知らない」という回答が6割以上であり、「知っており、内容もある程度理解している」という回答は1割未満となっていました。

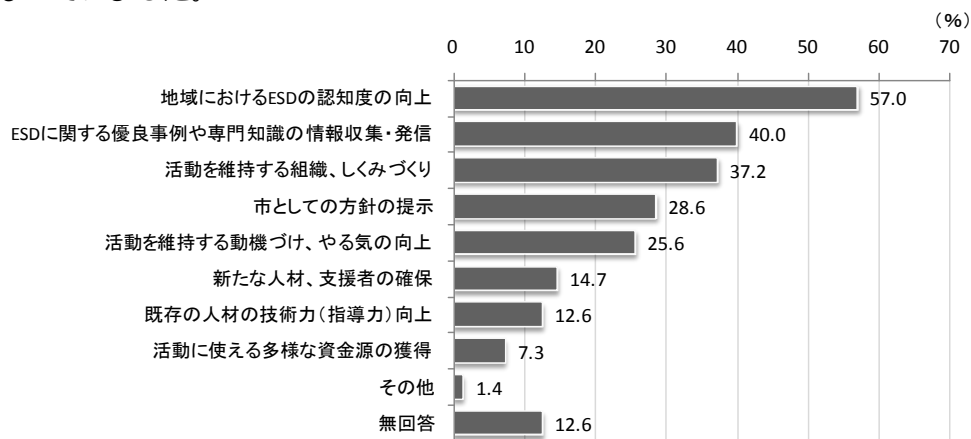
○年齢別にみると、「生物多様性」とは逆に、若い世代ほど認知度が低くなっていました。



■「ESD」の認知度

ESDの取り組みを推進するために必要な施策〈市民〉

○「ESDの取り組みを推進するために必要な施策」としては、「地域におけるESDの認知度の向上」が約6割と最も多く、次いで「ESDに関する優良事例や専門知識の情報収集・発信」、「活動を維持する組織、しくみづくり」が多くなっていました。

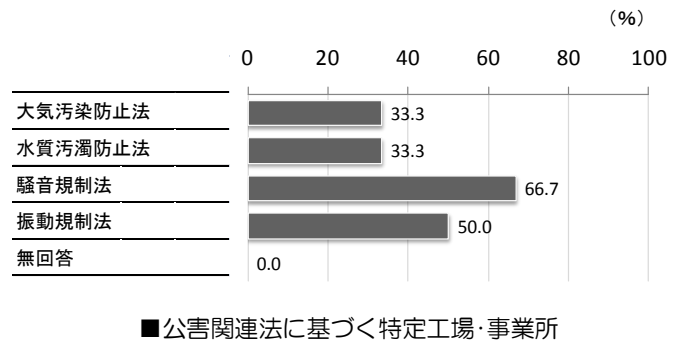
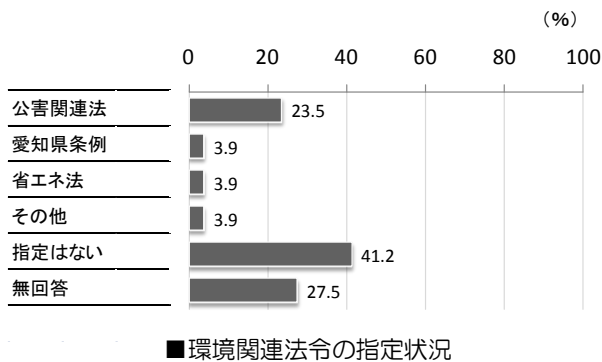
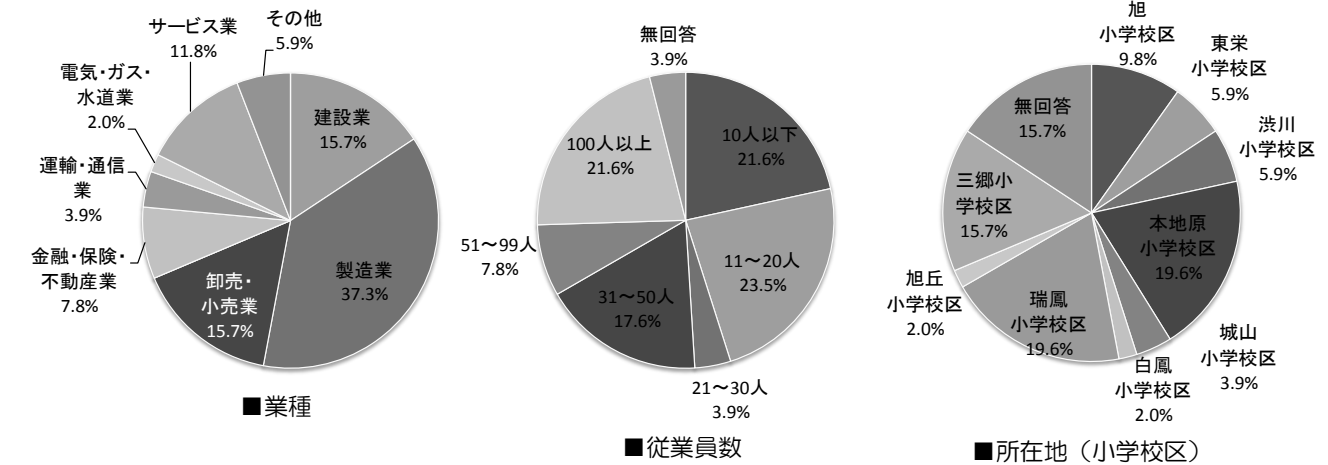


■ESDの取り組みを推進するために必要な施策

事業所向けアンケート調査結果

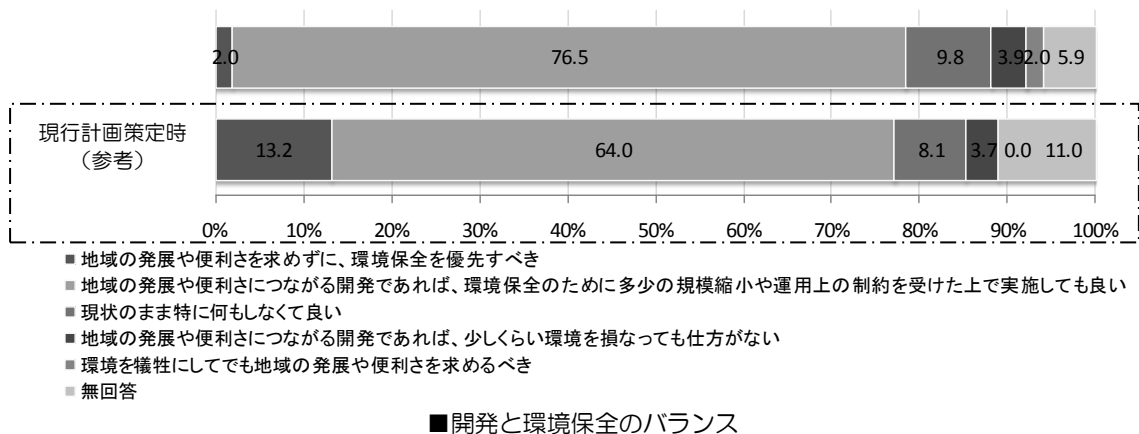
回答者属性〈事業所〉

○回答事業所の業種は、「製造業」が最も多く、次いで「建設業」及び「卸売・小売業」であった。従業員数は、「11～20人」が約24%、「10人以下」が約22%と、比較的小規模な事業所が多くなっていました。
○所在地では、「本地原小学校区」、「瑞鳳小学校区」、「三郷小学校区」が比較的多くなっていました。



開発と環境保全のバランス〈事業所〉

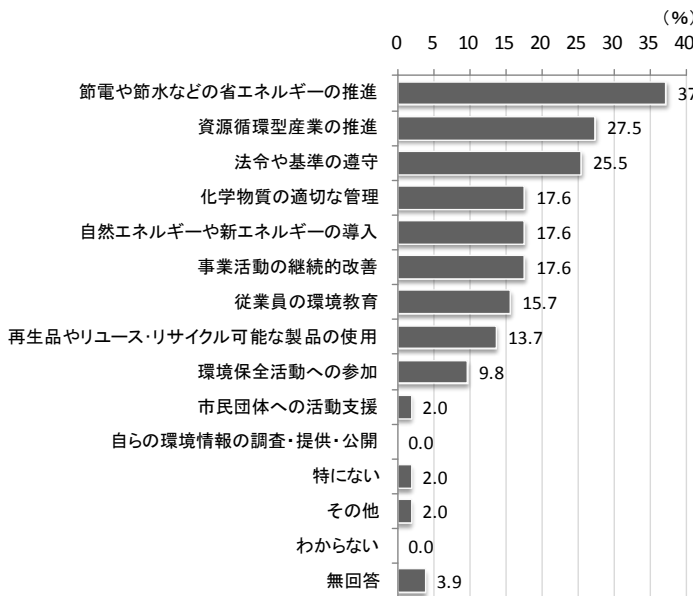
○「開発と環境保全のバランスに対する考え方」としては、「地域の発展や便利さを求めずに、環境保全を優先すべき」とする割合が、現行計画策定時と比較して大幅に減少し、「地域の発展や便利さにつながる開発であれば、環境保全のために多少の規模縮小や運用上の制約を受けた上で実施して良い」とする割合が増加していました。



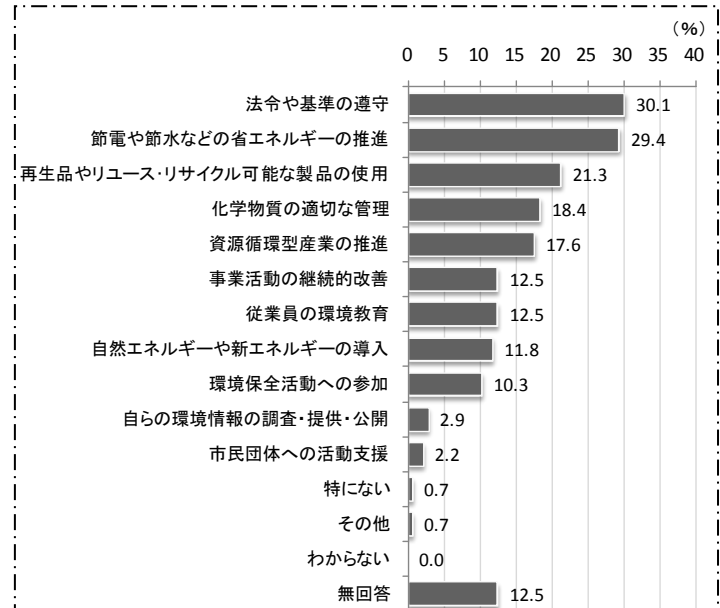
環境保全のために事業者求められる取り組み〈事業所〉

○「環境保全のために事業所に求められる取り組み」としては、「節電や節水などの省エネルギーの推進」が約4割と最も多く、次いで「資源循環型産業の推進」、「法令や基準の遵守」の順で高くなっていました。

○現行計画策定時と比較すると、「資源循環型産業の推進」の回答割合が大きく増加していました。



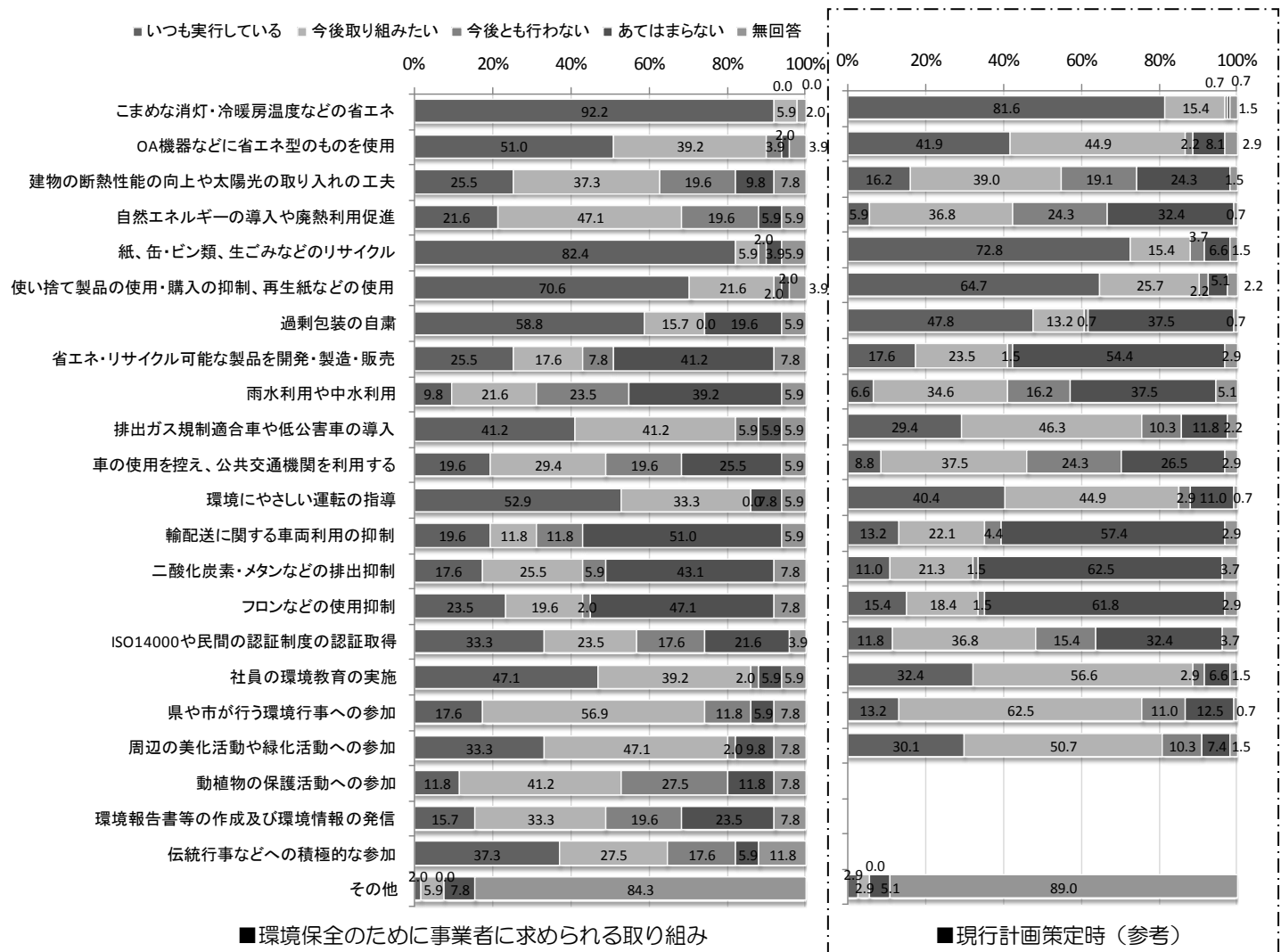
■環境保全のために事業者求められる取り組み



■現行計画策定時（参考）

環境保全に関する行動〈事業所〉

- 「環境保全に関する行動」として、「こまめな消灯・冷暖房温度などの省エネ」、「紙、缶・ビン類、生ゴミなどのリサイクル」、「使い捨て製品の使用・購入の抑制、再生紙などの使用」といった行動を、日常的に実行している事業所が多くなっていました。
- 「今後取り組みたい」とする行動としては、「県や市が行う環境行事への参加」、「周辺の美化活動や緑化活動への参加」、「自然エネルギーの導入や廃熱利用促進」などが多数挙げられ、CSR（企業の社会的責任）活動の一環として取り組む行動や、初期投資はかかるものの長期的視点では大きく経費節減につながる行動などへの意向が高くなっていました。



■環境保全のために事業者求められる取り組み

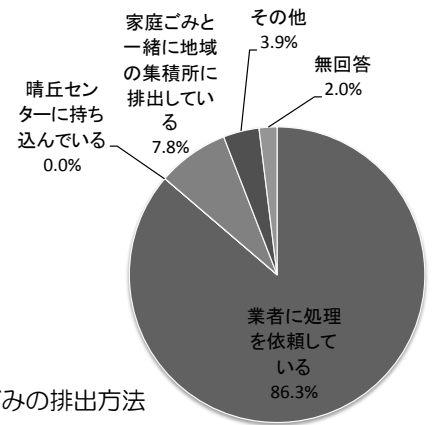
■現行計画策定時（参考）

順位	「今後取り組みたい」の回答割合が高かった行動 上位5項目	(%)
1	県や市が行う環境行事への参加	56.9
2	自然エネルギーの導入や廃熱利用促進	47.1
3	周辺の美化活動や緑化活動への参加	47.1
4	排出ガス規制適合車や低公害車の導入	41.2
5	動植物の保護活動への参加	41.2

■「今後取り組みたい」の回答割合の高かった行動

事業所から出るごみの排出方法〈事業所〉

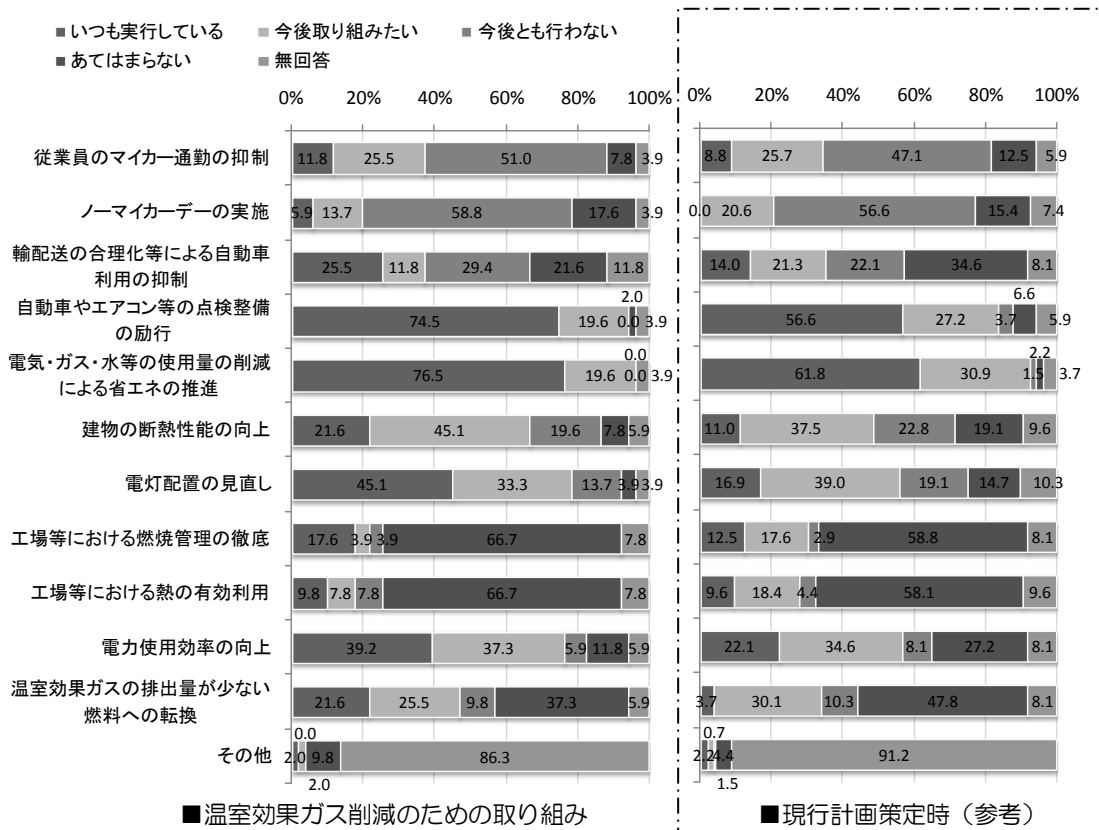
○「事業系一般廃棄物の処理方法」としては、「業者に処理を依頼している」が約9割におよんでいた一方で、「家庭ごみと一緒に地域の集積所に排出している」と回答した事業所も1割弱みられました。



■事業所から出るごみの排出方法

温室効果ガス削減のための取り組み〈事業所〉

○「温室効果ガス削減のための取り組み」としては「自動車やエアコン等の点検整備の励行」や「電気・ガス・水等の使用量の削減による省エネの推進」について、日常的に実行している事業所の割合が高くなっていました。
 ○「今後取り組みたい」とする取り組みとしては、「建物の断熱性能の向上」、「電力使用効率の向上」、「電灯配置の見直し」といった、建物の省エネルギー対策が多く挙げられていました。

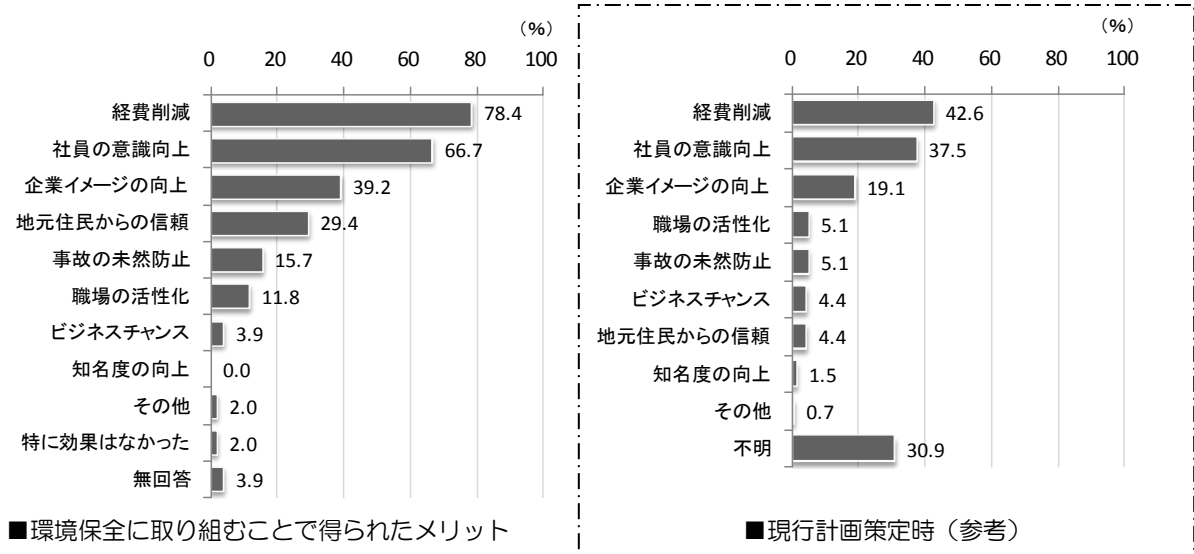


順位	「今後取り組みたい」の回答割合が高かった行動 上位5項目	(%)
1	建物の断熱性能の向上	45.1
2	電力使用率の向上	37.3
3	電灯配置の見直し	33.3
4	従業員のマイカー通勤の抑制	25.5
5	温室効果ガスの排出量が少ない燃料への転換	25.5

■「今後取り組みたい」の回答割合の高かった行動

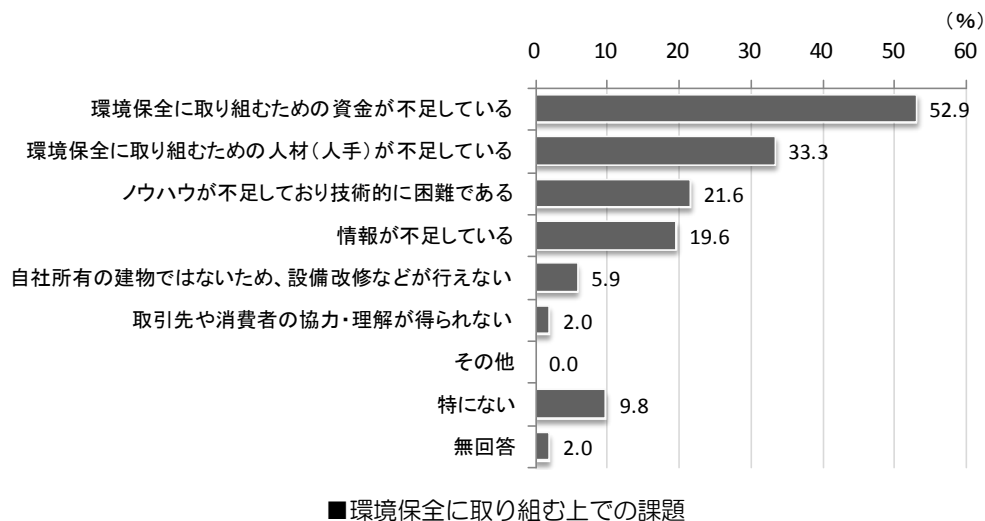
環境保全に取り組むことで得られたメリット〈事業所〉

○「環境保全に取り組むことで得られたメリット」としては、「経費節減」、「社員の意識向上」が6割以上と高く、次いで「企業イメージの向上」となっており、現行計画策定時と同様の結果となっていました。



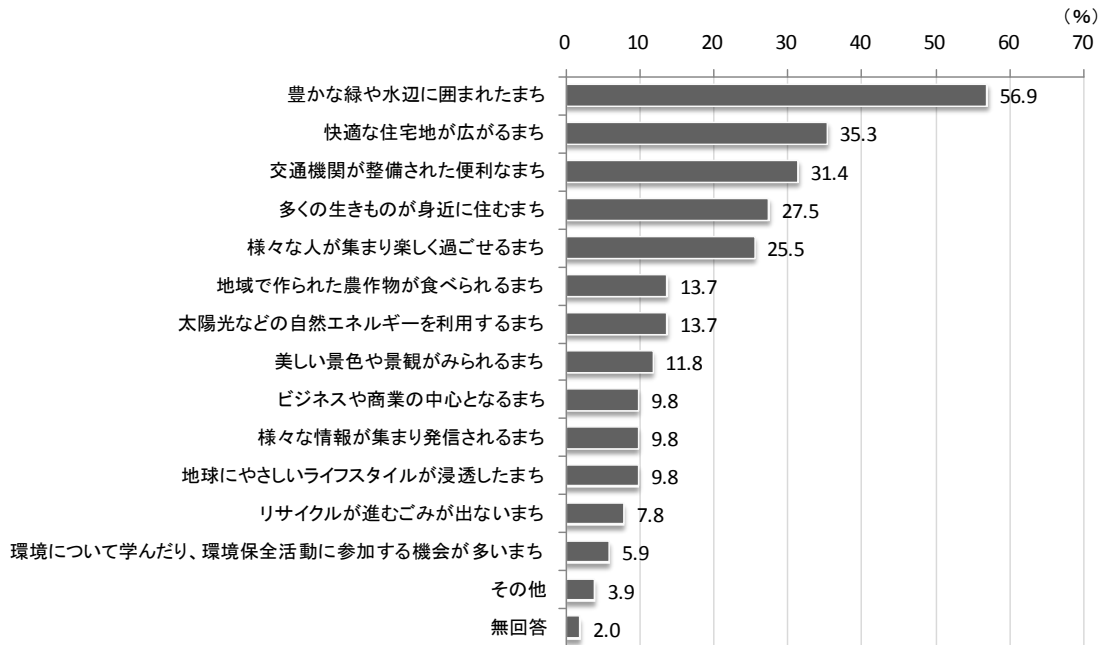
環境保全に取り組む上での課題〈事業所〉

○「環境保全に取り組む上での課題」としては、「環境保全に取り組むための資金が不足している」が約5割と最も高く、次いで「環境保全に取り組むための人材が不足している」、「ノウハウが不足しており技術的に困難である」、「情報が不足している」の順に高くなっていました。

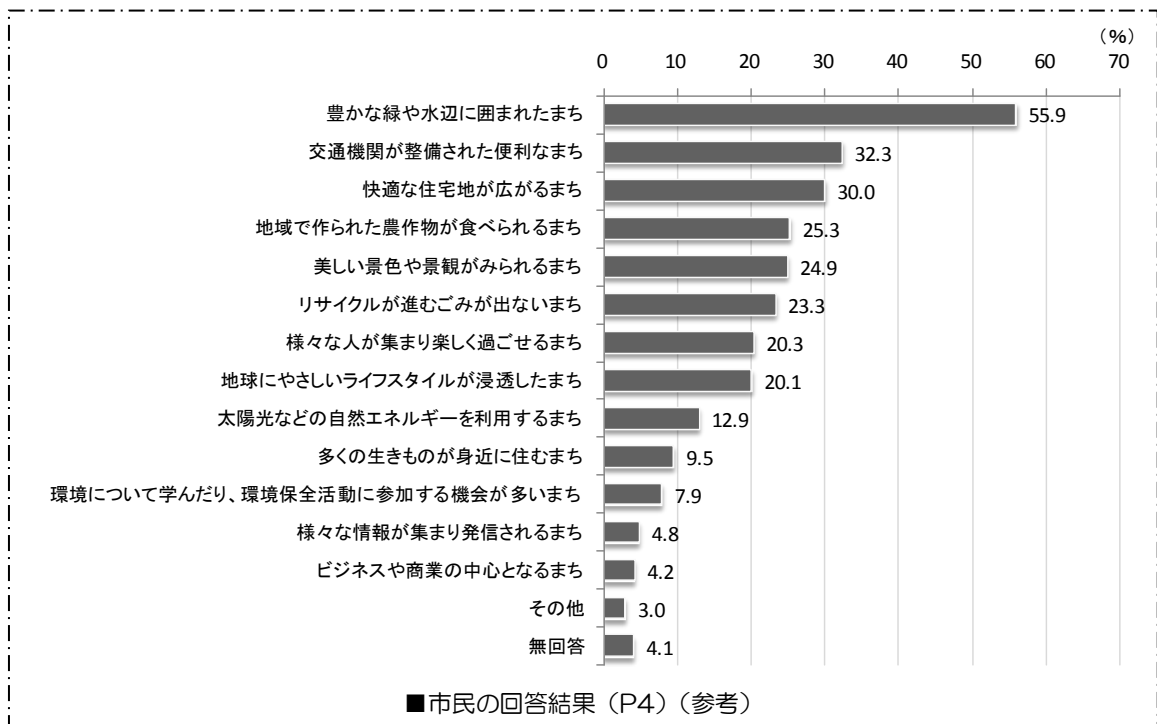


尾張旭市の環境を表すキーワード〈事業所〉

- 「尾張旭市の環境を表すキーワード」としては、「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」、「快適な住宅地が広がるまち」、「交通機関が整備された便利なまち」が多く挙げられており、概ね市民の回答と同じようになっていました。
- 市民の回答結果と比較すると、「多くの生きものが身近に住むまち」の回答割合が高くなっていました。



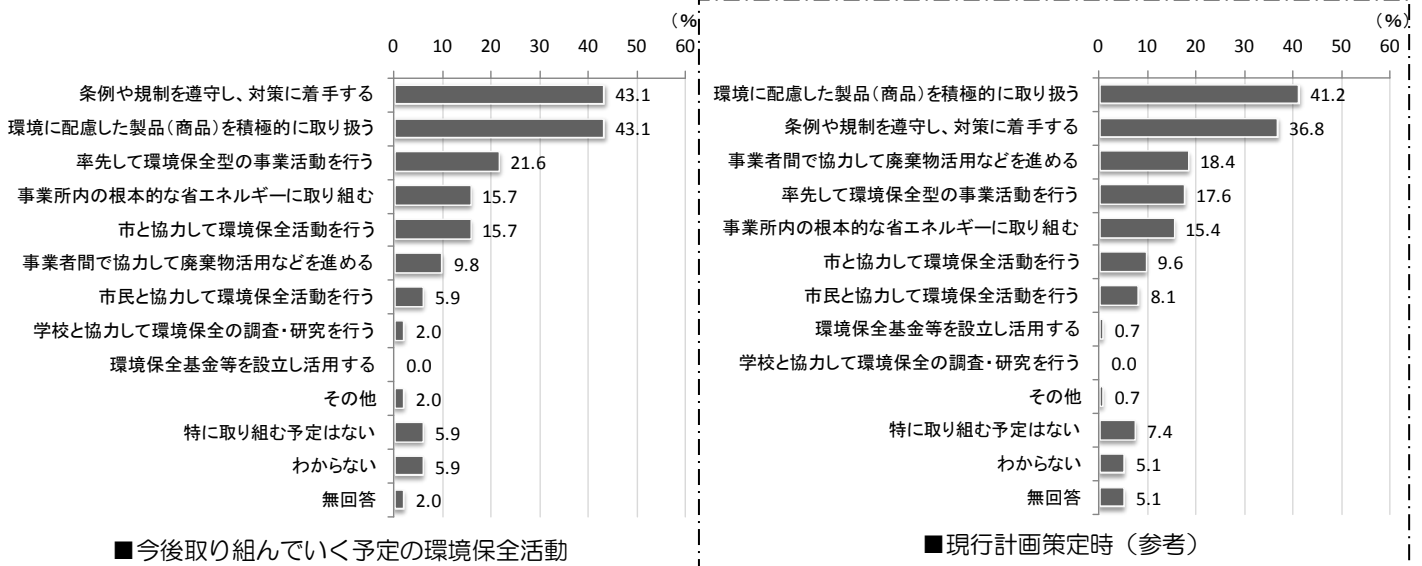
■これからの尾張旭市の環境を表すキーワード



■市民の回答結果 (P4) (参考)

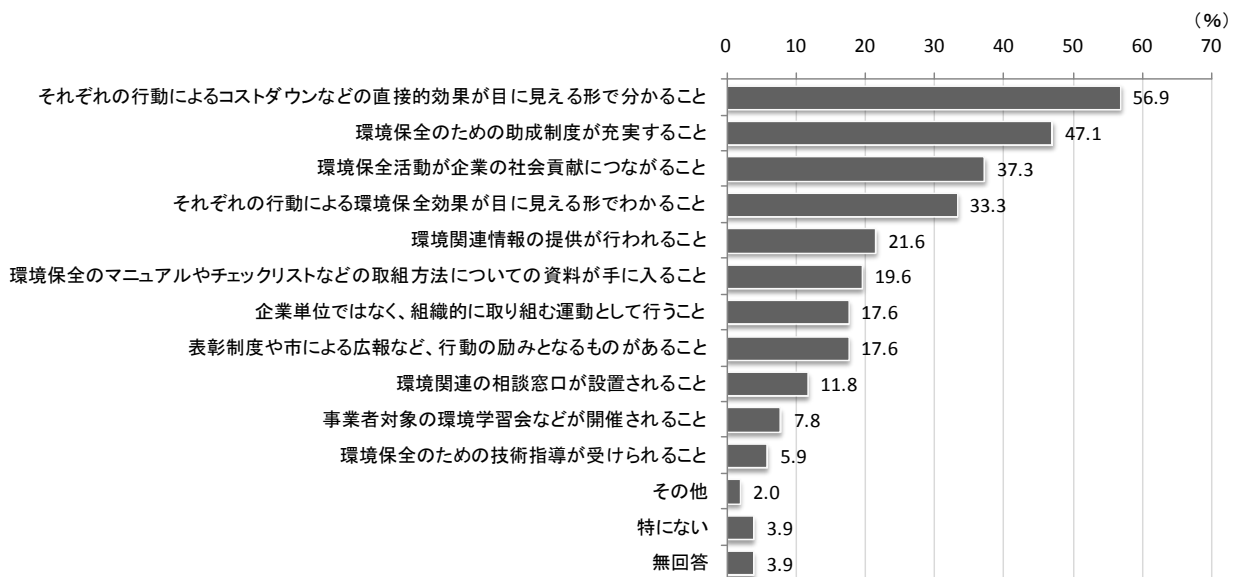
今後取り組んでいく予定の環境保全活動〈事業所〉

- 「今後取り組んでいく予定の環境保全活動」としては、「条例や規制を遵守し、対策に着手する」と「環境に配慮した製品（商品）を積極的に取り扱う」が4割以上と高く、次いで「率先して環境保全型の事業活動を行う」が高くなっていました。
- 「特に取り組む予定はない」と回答した事業所の割合は、前回と比較し、僅かではあるが減少していました。



環境保全活動により積極的に取り組むために必要なこと〈事業所〉

- 「環境保全活動により積極的に取り組むために必要なこと」としては、「それぞれの行動によるコストダウンなどの直接的効果が目に見える形で分かること」が最も多く、次いで「環境保全のための助成制度が充実すること」、「環境保全活動が企業の社会貢献につながること」といった順になっていました。



■環境保全活動により積極的に取り組むために必要なこと